

## さあ、回復へと向かおう 日本バプテスト連盟清水栄光キリスト教会牧師 萩原 永子

先日、家で愛用しているパソコンが壊れた。6年半ずっと調子よく動いていたパソコンが、ここに来て、じわじわと反応が悪くなり、とうとう壊れてしまったのだ。理系人間とは程遠いので、「そっとしておいたら直るかな」とか、「叩いたら直ったりして」とか、くだらない事を考えていた。友人にアドバイスを求めたところ、「ああ、それは、そっとしておいても、叩いても直らない」と、あっさり返答。新しいのを買うしかないかと落ち込んでいたら、様々な回復方法について助言してくれた。

なんでも、「自分で、そのパソコンを『再セットアップ』という、方法がある」と言うのだ。「セットアップ」とは、「組み立てる」という意味の英語である。何も、ドライバーを片手に分解して組み立てるわけではない(そもそも、そんなことは、私には出来ない)。「再セットアップ」とは、いわゆる「パソコン用語」で、「最初にそのパソコンを買った時と同じような状態」に戻すことらしい。そんな魔法のようなことが自分で出来るのかと、恐れおののいたが、パソコンを買ってきた時についてくる『困った時の Q&A』という本に、ちゃんと図解して書いてあった。なんとかその本を片手にし、指示に従ったところ、ようやくパソコンは回復した。

こんなことに、右往左往しながら、ふと思ったことがある。パソコンに再セットアップが必要だったように、私たち自身にも再セットアップが必要だということだ。私たちにとっての「再セットアップ」、それは礼拝である。礼拝は私たちを基本に戻す。「そう言うけれど、礼拝に行くのが面倒くさくなる」のなら、尚のこと再セットアップが必要だ。「体の姿勢」も、良い姿勢でいるより、悪い姿勢でいると、その方が楽に感じる。だが、「わたしが楽な姿勢」が、「体にとって本当に楽な姿勢」とは限らない。習慣が私たちの体を鈍らせているから、悪い姿勢の方が楽に感じることもある。だから、週ごとの礼拝を通して、私たちは、『困った時の Q&A』である『聖書』を片手に、本来あるべき最初の形に戻るのである。

私たちは、礼拝を通して、それぞれの現場に派遣される。そこは「荒れ野」かもしれない。疲れ果ててしまうこともある。泣きたいこともあるだろう。そんな時、一緒に礼拝へと、回復へと向かおう。その時、私たちは、間違いなく神に愛されているということを、一緒に確認しよう。イエス・キリストは、私たちの為に十字架で死なれ、よみがえったことを思い起そう。あなたも、あなたの家族も、あなたの友達も、あなたが愛する人も、あなたが苦手な人も、皆、礼拝をするために創られたと、思い起そう。伝道の力もそこからやってくる。

市民クリスマスの背後にある諸教会の礼拝を覚えつつ…。

## ゲストの 静岡英和女学院 ハンドベルクワイア の写真での紹介です 美しい演奏に心をかたむけましょう



**徳善義和(とくぜん・よしかず)先生の紹介です。期待しましょう**  
1932年、東京に生まれる。東京大学工学部卒、日本ルーテル神学校卒、ハンブルク大学、ハイデルブルク大学神学部留学。日本福音ルーテル教会牧師を歴任。

ルーテル学院大学・日本ルーテル神学校教授として38年奉仕。  
ルーテル教会牧師養成の責任を負う。現在、ルーテル学院大学名誉教授。  
宗教改革者マルティン・ルター研究に生涯を捧げており、著書・訳書多数。  
現役引退後は、ルター著書の翻訳とともに、バツハの神学的研究を心がける。  
日本キリスト教協議会(NCC)元議長、現在は日本エキュメニカル教会理事長、  
日本賛美歌学会会長。難しい神学を明瞭簡潔に伝えることができる神学者であり  
学生を育てる牧会者である。 (提供:明比 輝代彦 牧師)